

千葉大学医学部附属病院で間質性肺疾患合併肺癌に対し手術を受けた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年8月21日

呼吸器外科

呼吸器外科では、間質性肺疾患合併肺癌に対する重粒子線治療と手術の成績比較に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2014年1月1日～2023年12月31日の間に

- ①千葉大学医学部附属病院で、間質性肺疾患合併肺癌に対して手術を受けた方
- ②QST 病院で、間質性肺疾患合併肺癌に対して重粒子線治療を受けた方

1. 研究課題名

「間質性肺疾患合併肺癌に対する重粒子線治療と手術の成績比較」

2. 研究期間

2025年承認日～2030年12月31日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

肺がんは日本・世界ともに多く見られる疾患であり、特に日本国内においては男性での死亡率1位、女性での死亡率2位です。早期の肺がんにおける標準治療は手術もしくは放射線治療です。

重粒子線治療は2024年6月より本邦で保険収載となった新しい治療方法です。従来の放射線治療と異なり、がんに対する効果が強く、かつ正常肺組織への線量を減らせるという特徴を持っています。

間質性肺疾患は、肺の炎症や線維化病変を特徴とする疾患群であり、その原因は様々で200種類以上あるといわれています。間質性肺疾患を有する患者さんでは10-30%と比較的高率に肺がんを合併するといわれています。間質性肺疾患を合併した肺がん患者

さんにおいては、化学療法や放射線治療による間質性肺疾患の急性増悪を引き起こすことがあり、治療方針の選択に難渋することがあります。比較的新しい治療である重粒子線治療と、これまで行われてきた手術との成績の比較を行った報告はほとんどありません。

本研究では、当科で間質性肺疾患合併肺癌に対して手術を行った患者様の臨床情報を解析するとともに、QST 病院で重粒子線治療を行った患者様の臨床情報と比較することで、治療方法による成績、安全性などを検討します。本研究においては、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置き換えた情報を QST 病院から千葉大学医学部附属病院へ提供し、解析を行います。

4. 研究に用いる情報の種類

該当症例において、診療録に記載されている治療成績、早期合併症、遅発性合併症、画像情報、採血項目、病理所見に関する解析を行います。新たに採取する試料はありません。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学医学部附属病院	鈴木 秀海
共同研究機関名	研究責任者
QST 病院	石川 仁

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院呼吸器外科および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

呼吸器外科 医員 苅田 涼

043（222）7171 内線 5464